

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐市隠岐郡朝来町
電話2-9772

学校支援計画を 振り返って

授業づくりに係る支援

今年度も多くの申請をいただきました。管理職や研究主任と面談をさせていただいたことで、実態やニーズに応じた支援につなげることができました。また、多くの研究授業や研究協議に参加させていただいた中で、先生方が、学習の主体を子供たちにするべく、実践と協議に心血を注ぐ姿を見ることができました。今後も、国や県の方針をお伝えしつつ、先生方の授業力向上にとって有益な情報を提供していきます。

■校内研究支援に係る訪問、授業力向上に係る訪問

○八校から、計三十八回の申請がありました。

○「主体的・対話的で深い学びに迫る授業づくり」という

視点に沿って、目標に迫るための手立てを価値付けたり、学習指導要領を根拠に情報提供をしたりしました。

○ICTの有効活用や対話の充実に関するニーズが高くなり、ねらいを達成するためにも、ねらいを達成するためにどのようにそれらを授業に組み込んでいくか、話題にしました。

若手教員支援、経験年数に応じた研修に係る訪問

○それぞれのキャリアステージに応じた支援を行いました。

○島根県教育委員会や島根県教育センターが発行している資料をもとに、島根県で求められている要素を伝えました。

○支援の目的に応じ、単発ではなく継続的に支援に関わろう意識しました。

生徒指導に係る支援

(文責 濱田)

今年度も二回の計画訪問を行いました。各学校の経営方

針、生徒指導体制や取組の重点を理解し、派遣指導主事と連携を図ることでよりよい支援となるよう努めました。訪問の際に大切にしていたのは、学校や先生方のよさや強み、子供たちの素敵な姿や変容した姿に対する教師の有効な手立て等を伝えることです。今後、より学校のニーズを把握し、組織的な生徒指導の取組を支援できる訪問にしていきたいと考えています。

申請に応じた学校訪問では、生徒指導主任・主事への支援、若手教員への支援、校内研修を行いました。子供たちのよりよい姿を思い描きながら、主体的に学ぶ先生方の姿がありました。学びたいこと、日々の小さな悩み等、気軽に相談していただけたらと思います。

不登校対応の支援としては、ケース会議への参加、学習評価に関わる校内研修を行いました。先生方には、一人一人の実態を把握し、関わりを持ち続けていただいています。不登校の子供の状況はそれぞれ異なりますが、今後も

学校、保護者、関係機関が連携協力をしながら成長を支えることができるよう支援の在り方を考えていきます。問題行動については、小さいことでも見逃さず、丁寧に対応していただいていると捉えています。問題を起こさない指導ではなく、目指す子供の姿を明確にし、「未然防止の取組」が充実するよう支援していきます。

子供を取り巻く環境は日々変化していますが、その中で積極的に物事にチャレンジし、その経験を通して成長できる子供たちや学校であってほしいと願っています。

(文責 池田)

特別支援教育に係る支援

『学校のニーズに応じた支援を行う』ことを目的とし、今年度二回目の学校訪問を、各学校の希望した担当者【指導主事(特別支援教育担当)、支援専任教員(特別支援教育)、隠岐養護学校センター】の機能担当教員・複数選択可が訪問することとしました。

三者に対する学校側の相談内容が整理されていることで、担当者の役割が明確になり、より学校のニーズに応じた訪問になったのではないかと考えています。

特新担(新任特別支援学級担任・通級指導担当者)については、教育センターの三回の研修の他に、隠岐教育事務所管内では、毎年、年間二回の研修を行っています。年度初めは、障がいのとらえ方や学級経営・教室経営について(前年度特新担の方の実践紹介)、年度終わりは、自立活動の評価と引継ぎについてというように、その時期のニーズに応じた内容を設定し、研修を行いました。また、今年度は、支援専任教員によるサポート訪問、指導主事による教育センターの授業作り相談を行ったことで、年間を通じて要請に応じたサポートを行うことができました。

今年度も自立活動についての理解を深めるために指定校を設け研修と演習を行いました。演習は、各学校で【抽出児童生徒を設定↓教育センターの自立活動シートを活用して実態を整理↓自立活動の中心的な課題を考える】という内容であり、子供の実態把握を的確に行うために

○担任一人ではなく、チームで行う。

○一方向ではなく多面的・多角的に捉える。

○この大切さについて情報提供することができました。指定校以外からも、研修の依頼があり、広く自立活動について知っていただく機会を持つことができました。

(文責 角脇)

特別支援教育 支援専任教員の活用

(文責 角脇)

今年度から県の施策として「特新担サポート訪問」を実施しました。その後も継続して相談いただき、日々の指導の中での困りごとや子供の様子について話をしました。その中で先生方が子供の気持ちに思いを馳せ、授業や日々の支援につなげようとしていられると感じました。来年度以降も、特別支援学級での経験が浅い先生方が日々の授業や環境づくり等について困られた時に、気軽に相談していただきたいと思えます。

(文責 岡本)

